二流通

一　紅花買上ケ目録

（表紙）
「寅ノ紅花勘定目録」

紅花買上ヶ目録

一　弐千五百四拾弐貫目　　但し水花
　　代七百三貫三百八拾文
　　両かへ九百十文かへ
　　此金百九拾三両拾三匁壱分

一　干花八駄七分　　但し壱駄ニ弐百斤入
　　此掛リ物

一　両かへ九百廿文ツ、
　金拾八両弐分七匁弐分　（御役金　縄延　飯米　小遣　人足賃　花粉蓋柴　袋かミ次賃　方々礼共）

二口合テ
　金弐百拾壱両三分五匁三分
壱駄ニ付金弐拾四両壱分五匁九分六リンツ、
内訳

一　壱駄　　竹屋長左ェ門　殿
　代金弐拾四両壱分五匁九歩六厘

一　弐駄百四拾斤　　逸見庄左ェ門　殿
　代金六拾五両弐分十四匁六分

一　五駄　　西田七兵衛　殿
　代金百弐拾壱両弐分十四匁八分

合八駄百四拾斤
　代金弐百拾壱両三分五匁三分六厘

外ニ金壱両壱分六匁運賃金ニ相添御渡分也

右之通御座候、若勘定相違御座候ハヽ、重而可被仰付候、

荷物之義ハ京都若山屋勘右衛門方へ、一所為登申候、殊ニ入用掛物長西庄五郎殿ニ御座候、為後日紅花買上ヶ目録仍而如件

西田七兵衛㊞
同　次郎兵衛
秋場　庄五郎

元禄十一年
寅ノ七月五日
逸見庄左衛門殿

二　預り申金子之事

預り申金子之事

一　金壱両弐分　　但シ壱分判也

右者当午ノ御年貢不足申ニ付色々御断致、右之金慥ニ請取預り申所実正ニ御座候、返済之儀ハ来未ノ六月、紅花時分三分返済可申候、残テ三分ハ同未ノ十月廿日以前急度返済可申候、但シ壱月ニ付金拾両ニ壱分宛之積リニ利足加へ、元利共ニ相済シ可申候、若シ仲ヶ間之内遅々致候者御座候ハヽ、相残ル者弁出シ、申合ノ通月限ニ急度埒明可申候、為後日仍而如件

塩渕村金預り主
彦右衛門㊞
白山堂同断
平右衛門㊞
同　同断
久兵衛㊞

元禄拾五年午ノ十二月十三日

逸見庄左衛門　殿

三　鈴木清風紅花焼却一件関係記録（筆写・省略）

四　紅花青苧帳（横帳）

（表紙）

「　乙　享保二十年

紅花・青苧帳

卯　正月吉祥日　」

卯之紅花覚

一　金百拾七両三分弐百廿八文

生花弐千廿メ八百目代

ならし廿八文七分上り

両かへ四メ九百廿文

一　同三拾両三分

壱貫百四十三文

諸事かかり物　酒田迄運賃共ニ

壱駄ニ付

金五両壱分程宛

二口〆金百四拾八両三分

百四拾壱文

壱駄付金弐拾五両壱分

酒田着也

但五駄片馬廿五袋ニ作り也

右寒河江かい　六郎兵衛殿方ニ送ル

金壱両壱分五匁過

一　金五拾両弐分

九百七十文

谷地作り　腹松印　弐駄

壱駄ニ付弐拾五両壱分

四百八十五文

酒田着也

金四両弐分過

一　腹竹印壱駄　山形作り

代金拾九両ト三匁六分五厘

但水花三匁七分弐厘弐毛上り

両かへ四貫九百六十文

右之かかり物
一　金四両ト三匁七分五厘
右ハ御役金御用諸事入用也
〆金弐拾三両
七匁四分
壱太ニ付壱分四匁弐分
酒田ゟ大津迄　大石田着也
〆廿三両壱分
十一匁六分
三口合
金弐百弐拾弐両弐分ト
五百文也
外ニ
一　金壱両壱分拾弐匁弐分
酒田ゟ敦賀迄入用
一　同壱両壱分拾匁五分
敦賀ゟ大津迄入用
合金弐百弐拾五両
拾三匁七分

卯之青苧買口覚
惣兵衛買
七月四日
一　弐百拾弐巴六分　間沢
代金九両三分七百八十五文
五三四
一　百六拾九巴三分　大平
代金八両三百廿五文
五弐三
一　弐百八拾巴七分　間沢
代金拾四両壱分
四拾三文
四九
一　弐百拾三巴四分　葛沢
代金拾両壱分
五一　九百四十三文
一　百拾壱巴二分　岩根沢
代金五両八百九文

五三六
一　四拾弐巴九分　　沼平
　代弐両九百三十一文
四九
一　百廿七巴四分　　つるべ
　代金六両三分
四六三　　六百二十三文
一　三拾三巴六分　　間沢
　代壱両弐分
一四九四上り　九百八拾三文
八口　七月十四日ニ付ル
　〆五百九拾弐巴九分
　代金五拾七両弐分
　五貫四百四十九文
金合五拾八両弐分
　四百八拾九文
ならし　五拾抱八分　上り
　両かへ壱貫弐百拾文
同日
一　弐百五把八　雨池苧

惣兵衛かい
　代金拾両壱分
　壱貫百七拾弐文
四九上り
七月十五日
一　五拾四抱七分　土橋　惣兵衛
　代金三両八百九拾弐文
　同日渡し　済
同月五日　　間沢
一　四拾四抱　　孫左衛門
　受取
代
内二十二巴　四五かい四匁三分
　代三両壱貫百弐文
　内弐分七月晦日、左五郎薬物にて渡ス
　内弐分八月六日長五郎へ渡ス
五一　内拾四巴壱分　次郎左衛門
　代弐分九百四十八文

内弐分七月晦日ニ左五郎薬代内にて渡シ
より　入ル
五一　内七巴九分　長五郎
代壱分六百八十文
内壱分八月六日渡し　直ニ
内六百八十文　壱月廿五日さし引入ル
〆壱両三分弐貫七百三十文
此金二両壱分弐百五十文

貫見平兵衛買
一四五　百三把五分　片生
代金五両三分
一四　五十九巴八分　十郎畑
代金三両三分
一　拾巴三分　早坂
代弐分五百文
四三七

一　百八拾三巴七分　小清
代金拾匁壱分
壱貫百八十文
一四五六　弐拾三巴八分　同村
代壱両壱分
弐百八十六文
一　六拾巴五分　田代村
代金四両
四二五上り
六口〆四百四拾巴九分
代金弐拾五両弐分
壱貫九百六十六文
此金弐拾五両三分
七百十六文
一　金拾両　七月四日ニ
夫役の折ニ渡し
一　同弐拾両　七月六日
夫同人へ渡し

一　同六両　八月廿四日
夫六郎兵衛ニ渡し
〆三拾六両
内拾両ハ里衛門殿へ御渡し被成候由
残テ弐拾六両渡し也
七月一日　五百廿四文の
かしにて
七月七日　出久

八月九日付ル
一　千五百九拾六抱四分
代金八拾四両弐分ト
沢口　中沢口　壱貫弐百拾九文
小清　立木　西町
六郎兵衛かい
上り四七弐
内金八拾両　四度渡し
内金四両三分八月廿四日渡し

〆
江戸廻り六郎兵衛買
六壱
一　弐百拾七巴九分
代金八両三分
八百六十九文
六三
一　百九拾抱　小山吉兵衛苧
代金七両弐分弐百文
〆四百七巴九分
代金拾六両壱分
壱メ六十九文
六壱八
内
一　金拾両　九月九日ニ渡ス
一　金六両壱分　九月十四日渡ス
〆
残テ

〆壱貫六十九文
書出し
九月十七日　六く町
一　百五抱　七之助
代金三両弐分八百文
十九日ニ渡し済
同廿九日左沢にて
一　廿九巴　同人
六七五位
代壱両四百三十文
内壱両ノ渡し
入〆テ四百三十文　かり
着かし所々出ス
六郎兵衛買
五五三
一　九百三拾六巴　〈長井苧
代金四拾弐両壱分
百九十文

但し　左沢着也
六壱壱
一　六百三拾三巴六分　太郎苧
代金弐拾五両三分
七百文
同着也
六七
一　弐百廿三巴　西田苧
代金八両
八百九十六文
同着也
一　八抱　かり苧
代壱分　なし
〆八百六十四抱六分
三口〆三十四両壱分
三百四十六文
惣ならし四十八巴四分五厘上り
惣〆七千五百五拾
八抱九分

代金三百八拾八両壱分
八貫三百七拾壱文
金直シ
三百八拾九両三分
八百七拾壱文
外ニ
一　金壱分積り　惣兵衛
千四百五十三巴四分ノ礼
一　同三分積り　利兵衛
千六百八十壱巴七分ノ礼
一　同壱分と先付置　平兵衛
四百四十巴九分ノ礼
一　同三分積り　六郎兵衛
三千七百九十六巴九分ノ礼
一　同壱両積り　仁左衛門殿
五千七百廿巴ノ礼
一　壱貫五百十文
惣兵衛かいの太賃

一　四貫弐百五十九文
深沢、左沢ゟさかえ迄
太賃
一　八貫弐百四拾五文　七間ゟ
左沢迄　太ちん
一　金三両ト　廿七駄　□□ゟ
八百三十文　酒田迄
一　壱分壱貫四文　寒河江料
通判
一　弐分三百廿文　廿六駄
東根領
通判
一　金四両三分　卯為登
壱貫八十七文　廿七駄
酒田ゟ敦賀迄
かゝり物
一　同三分　ゆい苧代
十一月五日遣ス　新町

一　金参両弐分　　庄兵衛殿
鱈壱本代弐百文
前々ハ五両積り　仕候得共四駄片馬ハ
庄兵衛殿にてわけ申候間、拾弐両五分ノ通シ
礼仕候
一　同七両ト壱貫十弐文　同人へ払
但三十九駄半　諸事御用
小さく入用
一　同四百と四百文　次ニは物
着の
御用
一　三両積　手本わけ
雑用
一　七両五百文　手前買　なわむしろ
ともノ代
新町ゟかかり外也
十一両積り
一　金四両三分拾弐巴　廿七駄
九両五分つゝ入ル　敦賀ゟ大津迄入用
正四両壱分　壱匁一分
一　同六両三分　辰ノ春為登
拾弐駄片馬さかへゟ
大津迄入用積り
一　同弐分五百五文　惣兵衛かい
山内駄賃
雑用
一　五百文　白岩
七左衛門へ
酒文有
一　壱分壱貫ト　貫見
三百壱斤　利兵衛かい
山内所々礼
青苧
但百巴ニ付百四十三文ニ当ル
一　金弐分壱貫弐百文　六郎兵衛買
外ニ五百文貫見庄兵衛へ山内所々礼積り

壱分五百文遣ス

一　六百文　平兵衛

弥三郎かい

山内ノ礼積り

小以〆金三拾八両

三拾四貫四百五十弐文

両壱貫弐百五十文

金直四拾四両三分

壱太ニ付　七百弐文

壱太ニ付　七百弐文

金壱両ト八匁弐分づゝ

二口合

金四百三拾四両三分

三百廿三文

内金六両三分辰ノ春為登ノ入用也

残テ金四百弐拾八両ト

三百廿三文也

紅苧代〆

金六百五拾三両壱分程

内

三月ゟ前

一　金弐百両　井筒屋

善助かり

一　同百両　南部

善衛門

冬かり

二月廿六日かり

一　同百両　三月前　同人

同

一　歩前五拾両　三月前　同人

三月十七日

一　金拾両　京　長衛門

四月十一日

一　同五両　なら　善衛門

一　同三両　次兵衛殿ゟ

市十郎かり

一　同拾両　　京　長衛門殿
一　同五両　　なら　善衛門殿
一　三両　　京　長衛門殿
居買
一　十両　　同人ゟ
源衛門殿
一　八両　　同人　渡り
一　廿五両　　さし引受取分
ならゟいせへ
一　三十六両三分程　　ならゟ大阪へ
〆五百六十五両三分
〈残り　金八十七両弐分　己ノ有物ニ立ル
卯青苧元直附
覚
㊥腹幸飛印　四駄
壱駄ニ付十三両弐分替
代金五拾四両也　大津着
八百四十巴

同腹貫飛印　壱駄
代金拾三両　同着
七百七十両かへに
は亦飛印　弐駄
壱駄ニ付拾弐両替
代金弐拾四両
〆七駄壱分也
代金九拾壱両

二　番　立
七間上之路也
壱貫かへ
㊥腹大清印　壱駄
〈三代金拾七両弐分　大津着
同ニ上
は腹清白印　弐駄
三五　壱駄ニ付拾五両替　同着
代金三拾両□□八百廿匁かへ

同三

日丸清　印　　弐駄

く四　壱駄ニ付十三両弐分かい同着

代金弐拾七両

〆五駄

代金七拾四両弐分

貫見利兵衛買

四二
一　百拾八巴九分　　黒森

代金七両弐百十五文

三八
一　五百拾四巴　　貫見沢口黒森徳沢

代金三拾三両弐分

壱貫百廿八文

三七五六
一　百四拾巴六分　　十郎畑

代金九両壱分五百廿一文

外ニ

一　七匁　十郎畑ゟ貫見迄

弥三郎かい青苧太賃払

三七七
一　弐百六拾八巴九分　　又七田小清

代金拾七両三分百廿九文

三九四
一　七十弐巴壱分　　七夕

代金四両三分

七百九十四文

四十巴四分
一　百九拾巴八分　　徳沢

代金拾壱両三分

弐百七文

四二
一　三百八把七分　　大沼

代金拾八両壱分六百六十文

内　七百六十九文　寿覚院分

十四巴弐分四二かへ

代三分四百七十一文也
此代壱両と十匁五分也

三四
一　廿七巴弐分　田代
代金弐両

四八七
一　四拾把五分　徳沢
代金壱両弐分
代金弐両弐貫八百三文
三百弐拾三文

三九弐五上り
九口〆千六百八拾壱把七分
代金百七両ト三百廿七文
内七百六十九文　大沼通過也
引申候　引　両かへ壱貫弐百四十文
残テ金百六両三分七百九拾八文
内金渡し方
一　金拾両　七月七日渡し
一　同拾両　同九日　弥三郎

平兵衛渡し
一　同弐拾両　同十一日
父　与之助殿
一　同五拾両　七月廿五日
一　同拾両　平兵衛殿ゟ
渡し候由
一　同五両　八月十四日ニ
惣衛門誂越申候
〆百五両申渡し申候
一　六百文　七月廿五日渡し
〆百五両六百文ノ渡し
引残テ
金壱両三分ト百九十八文
右之通今日忠兵衛ニ誂平兵衛殿誂給候様申遣候間
御受取可被成候　若勘定違候ハヽかい帳御持参被成
御出可被成候　以上
壱両三分九月十四日ニ忠兵衛ニ誂越し百九十八
文忠兵衛取替給候様ニ申遣候

卯ノ　九月十四日

〆見村里衛門殿

参

三番立

㊥腹丸清印　七間上ノ内也

壱太ニ付十三両弐分　片馬

代金六両三分

壱メ匁かい

同小清印　七間路一上し

六代金拾八両　壱駄

大津着

同腹貫清印　同二上し

三五位　壱駄片馬

壱太ニ付十五両弐分　同着

代金弐拾三両壱分

同腹沢清印　同三

四位　壱駄

代金拾三両弐分

今頃七百八十巴かへ

七百三十匁

同腹上清印

代金拾壱両壱分替

〆五駄

代金七拾弐両弐分

四番立

㊥腹世白印　七間上し

壱駄

代金拾六両三分替

大津着

同腹青清印　同二

四駄

壱ニ付拾四両壱分替

代金五十七両

初直付八百八十匁ニ付うり申候十八日付申候

壱太うれ申候由

壱太八百五十匁替
内壱駄巴ノ初市ニ八百め替ニ極候由
同和清印　同三弐駄
八百匁かへにうり申候由
壱太ニ付十一両弐分替
壱月十八日之状に申参候
代金弐拾三両
右状辰正月廿四日着仕候
〆七駄
代金九拾六両三分
四口〆廿四駄南都出し
代金三百三拾四両三分
京出し之直
㊥腹上白印　壱駄
代金拾両弐分替　大津着

同腹上用印　壱駄
代金拾両替　同着
同腹極白印　壱駄
代金拾両也　同着
六百六十両ニうれ申候由
三月廿一日次兵衛ゟ申来候
入〆三駄　京都盛知川屋出し
代金三拾両弐分
辰之春為登元直
覚
㊥腹沢〆印　長井芋四駄
壱太ニ付十弐両弐分替
代金五拾両
片馬八百四十両かへ今頃
五同腹岩白印　同次壱駄

代金拾両弐分替
七百拾匁ニ己ノ初市ニ売候由
五同腹用清印　壱駄片馬
壱太ニ付十一両三分替
代金十七両弐分弐朱
七百四十両替ニ己ノ初市ニ売候由
五同腹○清印　片馬
壱駄に付十一両替
代金五両弐分
五同腹宮白印　弐太
壱駄ニ付十一両壱分替
代金廿弐両弐分
同腹四白印　弐駄
五八　壱太ニ付十五両替
代金廿両
内壱駄　京文字七百五十匁かへ
内壱駄なら己ノ初市ニ売候由

〆拾壱駄　南都出し
代金百弐拾六両弐朱
辰春京出し
㊥腹戸白印　壱駄
なら出ス
代金八両替
新文六百八十匁がへ
同腹ト白　片馬
京　壱太ニ付八両かへ
代金四両新文六百七十匁かへ
〆壱駄片馬京都出し也
代金拾弐両
辰春作り
同腹一白印　片馬
京　代金壱太ニ付十両かへニ付ル
正　元金三両壱分九百八十文也

惣〆三拾九駄　　片馬
代金五百三両壱分弐朱
内
金四百三拾四両三分
三百廿三文之金也
引残テ
金六拾八両弐分
三匁六歩過也
壱駄ニ付
金壱両弐分拾四匁宛過
辰ノ紅花仕入
覚
七月三日ニ大石田出し山形作り
㊥腹竹印　三駄
内壱分参宮金上ル残テ四両弐分七百文也

代金七拾四両三分
代八十一両にうれ内壱両ハかゝり物ニ引
六両八分五文
残テ八十両はしり
壱太ニ付、左ノ五百文ノ利也
金弐拾四両三分拾弐匁四文　上り
壱太ニ付現金手取
廿七両ニうれ申候
七月壱日ニ高セ舟積　谷地作り
一　同腹極万印　壱駄
代金弐拾両　大津着
七月壱日ニ高セ舟積寒河江作り
一　腹万亀印　弐駄片馬
壱駄ニ付廿六両ト十弐匁三分
代金六拾五両弐分
十三匁
△腹亀印　同片馬

代金拾両壱分
〆金七拾五両三分
十三匁
外ニ
一　金弐両　六郎兵衛へ
口セん
〆金七拾七両三分
十三匁
外ニ壱両弐分　大津迄入用
外ニ辰
十三駄
代金三百廿四両弐分
十一匁七分
此払口　三百壱両弐分
八匁弐分六厘
さし引残テ
金廿三両　三匁四分四厘

うり積
外ニ十両弐分
十匁四分三厘
利足払
未六月右仕切下り申候
未六月二日改
午ノ紅花
一　干上り廿壱〆弐百め　七之介買
代文金弐拾八両壱分
七四三上り　四百十文
一　同ちり花　同人かい
代弐分三百文ニうり取
山形小林喜左衛門殿へうり九月十二日
一　正ミ廿壱貫四百五匁ニ成
五五かへ
代三十八両三分十匁

二口〆三拾九両弐分百文　うり立
九月十五日遣ス
内壱両七之助へれ買ちん
同月遣ス
内三百文かへ内わくくれ而
残テ三拾八両壱分五百文
元金引　うり立也
残テ金拾両
内壱両参宮金上ル
残テ九両
未正月改里出也

午ノ谷地花
一　干花正ミ三十二貫匁
代金五十七両四百文
内弐両五匁　壱貫百匁　うり取
残テ壱駄ニ作り　上方登セ
代金五拾五両弐百文

外ニ
一　壱分弐百文　代取紙代
一　三百文　なわむしろ作ちん
一　壱両　さかへ京迄
かかり物
〆壱両壱分五百文
二口〆五拾六両弐分程也
未正月改有納也
来春京拂
金六十九両弐分　六両八分うり立
内五十六両弐分　元金引
内三分六両八分　かかり物わり合
利三郎舟
内弐分利三郎礼
〆五十七両三分　六両八歩
残テ金拾壱両三分
内三分参宮金上ル
残テ　十一両申ノ正月改利也

一　金四拾五両　山形紅花代也
久兵衛かい
此うり立
金五十両
内壱両久兵衛ニ口セン
内壱分　中買
残テ　四十八両三分
元金引而
残テ
金三両三分
未ノ正月改里取也
未ノ紅花　寒河江ニテ
一　生花千五百九拾壱貫七百目
代金弐百拾八両三分
八十六貫三百四十四文也
外ニ

一　銭八拾弐貫百十七文　生花百匁ニ五人づゝ
諸事かかり物
御役銀　大津迄駄運賃共ニ
二口〆弐百拾八両三分
百六十八貫四百六十一文
金合弐百八拾五両弐分
申正月改十月物弐百五十壱文
両かへ弐貫五百廿文
一　干花四駄十一袋出ル
一　天貫印壱駄五拾三袋
壱太ニ付八十四両大津着
代金百五拾三両弐分
百五十七文
一　竹松印　弐駄拾八袋
壱太ニ付五拾六両
大津着

代金百弐拾七両弐分
弐百十四文
一　飛印四袋　むり無手黒花
代金四両壱分五百十文
壱太ニ付七十一両十二匁大津着也
惣ならし六拾八両弐分ニ当ル
右うり立金高
合金弐百両三分拾匁
右ハ申ノ者京都ニ而払代金也
差引残テ
金八拾四両弐分五百文
うり損也
元文五年申六月廿五日改
申紅花
一　生花四百三十九貫め
代金弐拾九両
廿七貫五百文
外ニ
一　拾六貫八百十五文
かかり物
壱貫匁ニ四文つゝ
二口〆金廿九両
両七百十文かへ
金合四拾四両弐分
四百七十五文
干花壱駄廿五袋出ル
壱袋ニ付弐分壱分（マヽ）六厘
壱駄ニ付三十弐両ト十一匁上り也
外ニ
壱両弐分　京迄　諸入用
二口〆四拾六両四百七十五文
一　金六拾両　京都ニ而
手取うり代
さし引残テ

金拾三両三分、三厘
内壱分参宮金ニ上ル
一　残テ十三両弐分　戌正月改利也
戌改ヘ出ス

酉ノ紅花
一　生花千百三十四貫百め
代金六十九両壱分
四十四貫五十六文
金四両
四十三貫弐百六十五文
万入用
元〆
金七十三両壱分
八十七貫三百廿一文
金合百両弐分
弐百五十文
外ニ

一　金弐両一分五百五十文
さかへゟ大津迄
入用

合金百三両
戌改ヘ出ス
右干花正五百匁入
弐百拾袋出ル
内
㊥腹天亀印　弐駄
但弐固付
㊥腹天亀印　壱駄
組壱太ニ四固附
壱固ニ十六袋入
同印
㊥天亀　小荷壱つ
内十八袋天亀印入
内粉花弐袋五百匁入

内きり花三袋六百匁入
〆廿三袋入也
壱駄ニ付
金三十一両壱分
六匁六分
戌改へ出ス
大津着
一　此うり代金壱駄付
極り廿九両替
正金九拾壱両三分
手取也
指引
八金十一両壱分
損金也
戌ノ紅花
一　生花四百五貫九百め
代金四十六両壱分
外ニ
金三両壱分
八百廿三文
かゝり物
二口〆
金四拾九両弐分
八百廿三文
干花七十七袋出ル
外ニ壱分百五十文袋代
〆金五拾両上り
壱太ニ付ニ四十壱両弐分三匁三歩
上り
十月十三日
一　金五十五両ニ
山部山口へ拂
内五十両元金引
〆テ金五両ノ里也
内壱分参宮金
残〆テ四両三分

〆亥正月改里也

〆子七百九貫六百匁

代金七十一両三分

十八貫弐百文

子紅花仕入

六月八日

一　生花弐百貫め　長崎

代金弐拾両四百廿文

四三四上り

此干花三拾弐貫九百匁

六月九日

一　生花九拾貫匁　長崎

代金五両壱分

九貫四百文

三五六四上り

此干花十四貫弐百匁

同　十日

一　生花六十三貫匁　長崎

代金五両壱分

五貫七百文

四五上り

此干花十五貫四百匁

同　十一日

一　生花百廿三貫匁　長崎

代金拾弐両壱分八百文

四三六上り

此干花廿八貫百匁

同　十四日

一　生花百三十六貫匁　長崎

代金十七両

五四上り

此干花

同

一　生花四十八貫匁　谷地

代金六両弐百十文

五四上り
此干花
二口干花廿九貫匁
六月十六日
一　生花四拾九貫六百匁　長崎
代金六両
壱貫六百七十文
五五六上ル
此干花
同　十七日
一　生花三拾弐貫匁　長崎庄太郎かい
代金四両ト弐百廿文
五五上り
此干花
二口干花拾五貫五百匁
惣〆七百四拾壱貫六百匁
代金七拾五両三分
十八貫四百廿文

金合八拾両ト
五百七十文
外ニ
一　金三両弐分
四拾九貫弐百六十弐文
諸入用
此金合拾五両五百弐文
両壱貫六十文かへ
二口合金九拾五両
壱貫七十弐文
外ニ
一　金三両　庄兵衛殿へ　口せん
一　同壱分　小内方へ
一　同壱分　六郎兵衛へ
一　同壱分　七郎兵衛へ
〆三両三分
九月三日ニ酒田出船
九月廿三日ニ京着仕候由

拾月十一日ニ状ニ九郎兵衛殿ゟ申参候
右田駄ニ作り　上方京へ
為登ス近屋九郎兵衛殿へ
壱駄ニ付
金三拾五両大津着と
申遣し候

子ノ八月十二日

一　金三分袋紙廿弐状代
　　六百九十五文
一　弐貫　　作りちん
　　四駄なわむしろ
　　こさく代
三口〆六両弐分
　　弐貫六百九十五文
一　此金五両五百九十五文

二口合金百両
　　壱貫六百六十七文

（裏表紙）
「伊勢太神宮
　　中村七兵衛
五大力菩薩　」

五　紅花品質改善策ニ付願書（筆写）

（表紙）
「元文三年
紅花品質改善策ニ付願書
山形町場紅花仕入宿並検断」

乍恐以口上書奉願上候御事

□(虫)当國紅花之儀、根元土地相應之産物ニ御座候得而、於京都□(虫)直立宜敷捌来候処、近年ニ至リ出来不宜仙台花等ニ劣リ□(虫)、次ニ直立不捌ニ罷成候ニ付、畢竟花之摘様悪敷罷成候故と、去ル卯六月中御訴申上則花熟候得而、古来之通摘旬を□(虫)摘取候様こと、御領内被為仰付難有奉存候、御威光□(虫)旬直り、其年尤翌年紅花出来も宜罷成候様子ニ申唱候処、近年ニ至リ又候不出来ニ御座候由、隨而当月京都紅花問屋中ゟ御当所荷主仲間共方に書状到来仕候ハ、当所紅花之儀古来隨一之出来ニ御座候へ而御召類染来直段宜御座候処、近年ニ至出来不宜直段仙台花等ニ劣申候得而、其上駄数も年々減少仕候由、如何様之品ニ而出来不宜、駄数不足仕候哉と、問屋中評議御座候所、近年花之摘様旬をまたす未熟成を摘逸テ、無理摘ニ仕候故花ニ紅薄ク、縦雨花ニ御座候共相仕立候得而紅薄ク、尤未熟ニ摘候種ニ御座候得而其悪鋪種を蒔入候間、花之草生不出来仕、輪掛リ無数咲出前ニ掛リ或ハ曲リ虫付候癖出申候得而、摘出不足仕駄数減少候哉と遠察仕候得而、自今摘様古来之通熟花ニ至候得而摘取、未熟之花摘入不申様ニ申合、其上御上之御威光を以相直候様ニ相願可然趣申越候、隨而紅花問屋中ゟ今般差越候細書、去ル□奉入御披見候産物紅花之儀を以、乍恐御当国御町在諸

人相賑ひ後世も仕候処、近年直段も下直仕駄数減少之段申越候趣、難有儀至極奉存候、依之花之摘旬古来之通塾花相摘、未熟之花堅不相摘、花之ほうし決而摘入不申様ニ、以御慈悲御町在御百姓手前江被為仰付被下置、御威光を以摘旬相直り駄数多出来宜罷成候様ニ奉願上候、依之摘旬或ハ紅花宿仕入等之品箇候を以乍恐申上候

一　紅花摘旬之儀、往古ハ朝露之内英ニ紅を持疾と熟候を摘候故、日数十二三日或ハ十四五日も摘取申候へ而、尤畑之内熟花無御座候得ハ、一朝相除相休メ候と申儀御座候へ而熟花計摘取申候処、近年ニ至花之熟候ニかまハす無理摘ニ仕未熟成を摘候ゆへ、白根引出し或ハほうし引き摘入候得而、紅之有無ニ不構昼過或ハ八ツ時迄摘取候ゆへ、朝露を乾し自然と未熟成花を摘取一日之摘高多、近年ニ至候得而ハ八日七日或ハ十朝位ニ摘切候得而、其上花之摘旬ニかゝハらす其日直段之宜キニ見合候得而摘候か、或ハ手廻しニ御座候とて宵摘ニ仕候か御座候と奉存候、隨而花之出来追年不宜出来仕候様ニ奉存候、依之古来之通熟花計摘取未熟成花堅摘取不申、尤ほうし等決而摘入不申候様ニ被為仰付被下置、朝露之内四ツ時限ニ摘取候様ニ被為仰付被下置度奉存候、尤近年ニ至候得而花之蒔畑数減少も不仕、還而追年蒔相増申候所ニ、御百姓手前ニ而紅花売高も不足仕、年々駄数も減少仕候ハ如何様之儀と奉存候処、此度従京都申越候趣を以勘弁仕候得ハ、近年紅花未熟成を摘取、其熟せさる種を以蒔付候ゆへ草生不出来仕、花ニ輪数すくなく咲出勢ひよハく御座候ゆへ、摘高不足仕自御百姓之困窮ニ罷成候、且ハ駄数も不足仕乍恐気之毒ニ奉存候、依之摘旬宜熟種蒔入候ハヽ分過ニ摘取直段も宜罷成、御町在御百姓並商人相潤、尤駄数追年相増可申奉存候

一　近年花市場ニおいて、花相調候宿共見世出遅く七ツ時或ハ暮ニ掛り、買出し夜ニ入四ツ九ツ時迄も買入申候、畢竟近年ニ至京都ゟ買人も下着不仕相□ミ無御座候ニ付、自見合ニ罷成候得而見世出延引仕候、併買出し遅ク御座候得而ハ、御町在さんべ共売仕廻遅ク指間ニ罷成、其上遠方ゟ罷越候さんべ共仕廻遅ク御座候得ハ罷帰兼候族も有之、尤取仕廻ニかきらす諸商人或ハ日雇取迄ニ難儀仕候儀ニ奉存候、勿論紅花相調候者も昼之内買入相仕廻候得ハ、花之仕入取

仕廻も勝手能、麁抹ニも不仕自出来も宣罷成可申候処、夜中夜更迄買人取仕廻候上ハ諸事麁抹に罷成、自然と不出来之基ひと奉存候、尤往昔ハ昼之内より暮時迄買仕廻仕入、麁抹ニも不仕候故自然と出来も宜可有御座哉と奉存候、勿論近年ニ至候得而ハ、紅花取仕舞手廻シ専一之様ニ仕、花之相仕立麁抹之儀も可有御座、右之趣壱人毎ニも相直りかたく奉存候、当年ゟ買出昼九ツ時ゟ八ツ時或ハ七ツ暮を限ニ買仕舞、暮過候得而ハ商売不仕様ニ被為仰付被下置度奉存候、然上ハ御百姓手前ニ而も弥御制禁相守、四ツ時を限ニ摘切九ツ時ゟ市場へ持出し商売可仕哉と奉存候、尤右之通昼九ツ時より暮時限ニ売買被為仰付被下置候ハヽ、御百姓手前ニ而も直売或ハさんべ共ニ相払候も刻限早御座候得而、相仕舞早ク外農業之相勤ニも罷成、勿論さんべ共仕廻早ク手廻勝手ニ成、或は市場遅ク御座候得而遠方ゟ罷越兼候族売場早ク御座候上ハ猶繁多ニも罷成、諸事御所賑之基と奉存候、依之昼九ツ時ゟ暮時限り、堅夜ニ入候得而売買不仕候様ニ被為仰付被下置度奉存候

附、紅花市場中□過ゟハ上山在或ハ天童山奥ゟ持参仕候ニ付、暮時限ニ候得而ハ差閊ニも可罷成、依之其節ハ夜ニ入五ツ時迄も相調申度奉存候、山花ニ罷成候節御注進可申上候、併此度被仰付ニ而市場早ク相立暮時迄ニ買仕廻候段、近領ニ而も及承可申候間、花之摘出も早クさんべ共買出シも早罷成、山花ニ懸リ候得而も差閊申儀ニも有之間敷哉と奉存候、畢竟当所市場早ク買仕廻暮限と及承候ハヽ、近領ニ而も朝之内摘入候得而、自然と御当所之風儀ニ準し熟花摘取ならハしも相直り可申哉と奉存候

一　紅花水花玉ニ致商売仕候ニ、きせ花と申花之能キを撰玉之上へ着せかけ申候得而商売仕候儀ニ御座候、畢竟花悪敷ほうし沢山ニ御座候を相隠候手段ニ御座候、尤雨花或ハ摘之能花ハきせ花相掛不申候得而も商売仕候、然上ハさんべ共きせ花掛不申生得之花ニ而商売仕候様ニ仕度奉存候、此度御当領之儀ハ被仰付御威光を以花之摘様も相直り可申候得ハ、御百姓手前しめ出し玉花きせ花致候得而も不苦候、畢竟御他領ゟ入込候花摘悪敷ほうし多御座候得而、きせ花かけ

紛敷売出候得而ハ不出来之基ひニも罷成可申、勿論花之善悪ニ隨ひ直付仕候様仕度奉存候、他所ゟ持参並他領ゟ買入候花相直り不申一統ニ商売仕候儀難儀奉存候、依之花玉ニきせ懸不申様ニ御町在さんべ共並他所者之儀ハ、当町さんべ宿ニ而此段堅申聞候様ニ被為仰付被下度奉存候

一　紅花買人共生花ニ而相調候儀、去ル子之年御停止ニ被為仰付候、猶以生花ニ而堅相調不申様ニ被為仰付被下度奉存候、畢竟紅花之儀ハ拵仕入ニ而紅之多少も御座候所、生花花屋ニ而沢山ニ相調候而ハ自然と手当も無数、花之揉こなしも薄御座候得而不出来罷成候、百姓手前ゟさんべ買出し水ニ付揉こなし玉ニ仕売出し、買入舟ニ溜置こなし手数当り候故花之こなれも能御座候得而出来宜御座候得共、此度被仰付ニ而花之善悪をも分ケ相調候上ハ、水花ニ而相調仕入候儀出来之宜専一ニ御座候、尤生花ニ而花屋共直ニ相調候得而ハ、商之賑ひも少ク罷成さんべ宿渡世之者も賑ひ薄ク罷成申候間、弥以生花ニ而相調不申候様堅被為仰付、若生花相調候者有之候ハヽ、十日町七日町市場より吟味仕候様ニ被為仰付被下度奉存候

一　兼而被仰付置候さんべ共、置花囲ひ候儀弥以御停止被為仰付候様ニ仕度奉存候、先年申上候通雨降出候日ハ、生花ニ而一夜かこひ置翌日売出し申儀御座候、生花ニ而一夜囲ひ置候得而ハ、花腐りおろし粕同前ニ成候得而、其上性能キ花迄供すれニ成花之不出来第一之基ひニ御座候、依之置花決而不仕候様ニさんべ共並さんべ宿へ被為仰付、其上十日町七日町之者共吟味仕候様ニ被為仰付被下置度奉存候

右、巨細之趣奉願上候段恐多奉存候得共、紅花之儀ハ御当所産物之第一御座候得而、御町在御百姓並商人相潤渡世之専一御座候所、近年出来不宣候由ニ而、京都紅花問屋中拾四軒評議之上書状指下シ申候間、乍恐難儀気之毒ニ奉存候□以御慈悲御百姓手前花摘旬相直り四ツ時限摘取、尤紅花仕入宿商人共花之仕向麁抹ニ不仕、昼九ツ時ゟ暮時を限ニ相調、並さんべ共正路ニ商売仕候様被為仰付被下度奉願上候、右願之通被為仰付被下置候上ハ、京都拾四間問屋中江被仰

付候趣隨而当紅花ゟ出来相直り可申旨申越置、隨分出情仕出来宜荷作仕り為指登、往昔之通仙台福島之出来ニ勝レ宜相
捌申候様ニ仕度奉存候、依之以御慈悲右願之通被為仰付被下置候ハヽ難有可奉存候、以上

十日町紅花仕入宿願主　与次兵エ
同　弥五兵エ
同　嘉右エ門
同　治兵エ
同　平右エ門
同　留兵エ
同　久左エ門
同　次郎兵エ
同　左次兵エ
同　与兵エ
同　茂左エ門
同　半左エ門
同　甚八
同　傳七

元文三年午五月

同　庄右エ門
同　忠兵エ

七日町紅花仕入宿願主
傅兵エ
同　勘七
同　勘蔵
同　弥治右エ門
同　十次郎
同　弥太郎
同　与三郎
同　源兵エ

横町紅花仕入宿願主
清右エ門
同　六左エ門

八日町紅花仕入宿願主
儀左エ門
同　善太郎
同　作兵エ

旅篭町紅花仕入宿願主

清次郎
同　玄　瑞
同　喜左エ門
同　忠次郎

十日町検断
青山善三郎
同　新海仙右エ門

七日町検断
江口傳右エ門
同　五十嵐太右エ門

横町検断
上　六右エ門
同　斎藤　久兵エ

八日町検断
森谷長治右エ門
同　荒井市左エ門

旅篭町検断
江口与右エ門
同　工藤武右エ門

右願之趣、大小之百姓並名子水呑寺社門前之者迄令被披見、前書之通相心得可罷有者也

五月廿三日　　代官役所　印

六　（紅花問屋取扱手数料引下げニ付）一札之事

一札之事

一　於京都紅花売買之儀、近年問屋十四軒ニ相究、荷物心之儘ニ引請、其上年々順番之様ニ潰申出、商人方江大分損失相掛ケ申候得者、殊之外商人百姓共及困窮迷惑仕候故、我々発端ニ而罷登リ、先年之通被為仰付被下候様ニ奉願上候ニ付、各方頼入印形申請候、然上者唯今之問屋共、銀高ニ三歩口銭相立置候所も、貳歩口銭ニ為致可申候、右之通御願筋成就致し候ハヽ、残壱歩之所者願人方江可申請候、万一願成就不致候ハヽ、願之筋入用惣雑用損毛致し、右願之儀ニ付、如何様ニ被為仰付候共、各方江御苦労御損一切掛ケ申間鋪候、尤各方ゟ被相渡候定書之外余願曽而仕間鋪候、勿論新庄御領、東根御領、山形御領其外村々諸商人衆印形同意ニ相揃候ハヽ、掛御目可申候、若シ相揃不申候ハヽ右願書之筋相止メ、各方江御印形相返し可申候、為其一札仍而如件

元文五年申ノ閏七月

鈴木忠助㊞
中村六郎兵衛㊞
柊屋甚右エ門㊞

大田藤四郎㊞
柊屋新次郎㊞
證人 青柳喜惣次

土屋勘右衛門殿
堂ミや五右エ門殿
伊藤左兵衛殿
堂ミや忠右衛門殿
細谷太郎左衛門殿

七 一札之事（同前六の筆写につき除く）

八 覚（紅花買請代金請取書）

覚

一 金弐百両ハ　但シ小判也

右者紅花御調金慥ニ請取申候、御指図被遊候通相調、御荷物為相登可申候、此内如何様之儀共出来仕候共、少茂相違仕

間鋪候、為後日之仍而如件

阿部久右衛門㊞
同　久左衛門㊞
同　藤兵衛㊞
同　太四郎㊞

寛保二年
戌六月十二日

稲村七郎治様
同　七郎左衛門様
御使　傳内殿

九　（紅花代金滞二付）乍恐書付を以御訴訟奉申上候

（表紙）
「宝暦弐年申五月
長瀞村庄七北口町庄右衛門前小路村金右衛門、紅花代金其外差引出入ニ付、御裏御判并返答書之写
附、御評定所御尋之趣并済口迄之覚書

申　九月中旬　」

乍恐書付を以御訴詔奉申上候

岩佐郷蔵御代官所

出羽国村山郡長瀞村

訴詔人　庄七

一　紅花代金滞出入

戸沢上総介様御領分

同國同郡北口村

相手　庄右衛門

乍恐長瀞村庄七奉御訴詔候者、私儀前々ゟ少々宛之商等を以渡世仕来り申候ニ付、去ル巳年七月中紅花仕入、干花荷物壱駄弐固、小荷壱丸右庄右衛門すく相渡、京都江為指登代金之儀、於京都売拂候上ニ而相渡申筈ニ相究申候、然所ニ当四ヶ年以前巳年之儀者、上方紅花直段格別下直ニ而損金相立候由、庄右衛門方ゟ申越午年二月中ニ至り、庄右衛門下代為指登相拂申候由ニ御座候へ共、右之訳一向無沙汰ニ仕罷在候故、私方ゟ度々催促仕候得共、上方へ為登候もの不罷帰候由、挨拶仕候ニ付、私方ゟ又候申遣候者、預り荷物之儀、不埒ニ被致候而者、仲間荷物之儀ニ候得者、我等商売之指障

罷成候由、度々催促仕候得共、不埒成ル挨拶斗仕、殊之外難儀奉存候ニ付、無是非私村方名主方へ申達、北口村名主中江付届ケ仕候得者、漸其節ニ至り、上方へ為後日登候者罷帰候と申儀ニ而、京都ノ問屋仕切證文私方へ指越申候、勿論金子者相渡不申候、殊仕切表ニ甚難相心得義御座候ニ付、早速庄右衛門方へ罷越仕切表不埒之段相尋、其上代金之儀者指支給兼罷在候間、早々被相渡候様ニ申し候所、庄右衛門申候者、金子の儀者下代金右衛門と相対之上請取可被申候、仕切表相違之儀者、我等方ニ而急度相糺可申などと以之外不埒成ル挨拶仕候ニ付、私申候者挨拶之趣難相心得存候、金右衛門義者、御自分之下代ニ候得者、此方ゟ相構可申筋無之候、荷物之儀者、貴殿江預ケ候故、預り證文ニも細矢庄右衛門と被相記、其上仕切表ニも其許之当名（ママ）ニ御座候、金右衛門方江我等相構可申筋無之候儀と申し候得共、曽而承引不仕弥我侭相募り申候ニ付、去ル午之年七月元御支配柴村藤右衛門様御代官所之旨奉願御添簡被成下、右庄右衛門、御地頭戸沢上総介様御役所迄相願候所ニ、段々之御吟味被申候得共、相済不申延引ニ罷成申候、然所ニ同年八月藤右衛門様御場所替ニ付、跡御支配当時岩佐郷蔵御代官所ニ被仰付候、依之又候郷蔵添状を以上総介様御役所江奉願候得共、一向相片付不申候、其上去冬中ゟ□□□（虫）人有之、色々取扱仕候得共、相済不申候ニ付、不及是非此度御訴詔奉申上候、私義金子他借を以仕入仕、預り候荷物之代金（下ママ）相滞、去年中ゟ仕入者不罷成、仲間江対シ候而茂相立不申、商売相続ニ指障り、身上茂難相立必至と難儀仕候、右申上候通預ケ候荷物代金之儀ニ御座候得者、何とそ御慈悲を以右庄右衛門被為召出、御吟味之上仕切表之金高五拾両壱分銀拾壱両五分弐厘、不残相渡候様ニ被為仰付被下置候者、私身上相続仕相助り難有仕合奉存候、委細之義者御尋之上乍恐口上ニ可奉申上候、以上

岩佐郷蔵御代官所
出羽国村山郡長瀞村
宝暦二申四月　訴訟人　庄七

御奉行所　様

是より御裏書

如斯日毎指上候間、其他ニ而埒明事ニ候ハヽ可相済、滞儀有之者致返答書、来ル六月四日評定所、□□(虫)出可対処罷於不参者曲事可為者也

申
四月廿九日

豊後判
丹羽判
御用方無加印
河内
御用方無加印
若狭
伊豆判
肥後判
長門判

伊賀判
因幡判

出羽国村山郡
北口村
庄右衛門
五人組
組　頭
名　主

右之通リ紙之末ニ
少しく有之也

乍恐返答書を以奉申上候

一　羽州村山郡北口村庄右衛門奉申上候、岩佐郷蔵様御代官所、同国同郡長瀞村庄七申上候者、紅花仕切金私方ゟ不相渡、其上仕切状之表難心得旨御訴申上、御裏御判頂載仕相附候得共、偽ニ御座候ニ付、乍恐返答書を以奉申上候

一　私儀者御廻米津出シ最上川筋船持ニ而、御廻米後者諸商人荷物引請商売仕来候所、四ヶ年已前巳七月、私方へ庄七申聞候者、紅花壱駄弐箇小荷壱丸、売支配人辻六郎左衛門様御代官所同国同郡前小路村金右衛門と申者相願、京都江積為登度旨、然共川船ニ差支候間、世話致され候様ニ相願申候ニ付、則荷物私船江積下請取書遣申候、尤手板之儀庄七

直々為登ニ仕、庄七方ニ相認候手板ニ而京都江積為登申候、則手板才料方ゟ請取所持仕候、尤庄七指図之通上方へ紅花無相違相届申上者、私荷請取之表相済可申と奉存候

一　右紅花上方迄庄七手板ニ而為相登申候間、私方ニて相構申義無御座候、先達而右之段庄七方ニ而心得違ニ御座候由、長瀞御役所へ申上候所ニ、庄七返答ニ庄右衛門送り手板ニ而上方迄相為登、庄七送り手板遣不申ニ付、庄七相認候手板之訳委細申上候処ニ、又候庄七返答ニ壱枚者認候得共、跡壱箇之壱枚ハ有之間敷由、尤弐枚共□(虫)候ハヽ、庄七直為登ニ茂紛無之由返答仕候間、才料方承候処、弐枚共庄七手板ニ而上方へ持参仕候由申義ニ御座候間、其段又々庄七方へ申被聞候

一　右紅花之儀直相対仕、売支配人金右衛門相願、上方へ為相登候義紛無御座候、其證據ニ者上方ニ而金右衛門売払候仕切、金右衛門方ゟ庄七方へ直々相渡申候、尤右仕切之儀庄七方ニ而何方ゟ仕切請取候哉、御吟味被遊被下度旨長瀞御役所ニ申上候所ニ、紅花仕切状金右衛門方吟味仕候處ニ、金右衛門方ニて者仕切状之義一向存不申候、定而京都ゟ庄右衛門方へ直々相下リ可申由庄七方吟味之所、仕切者庄右衛方ゟ請取候由、右両人者共申儀之由、長瀞御役所より被仰遣候ニ付、京都問屋伊勢屋源助方に飛札ニ而庄七紅花之儀承合候所ニ、巳極月三日庄七紅花代金不残仕切状共金右衛門方へ相渡候由、右源助方ゟ申来候、依之仕切代金共ニ金右衛門方ゟ庄七方へ直々相渡相済可申与奉存候所ニ、庄七方ゟ御裏御判頂載奉驚入候

一　諸商人共仕切勘定之儀者、仕切状之表ニ而金子取引候義ニ御座候、然所ニ仕切状斗請取金子請取不申候段申上候義、難心得奉存候、其上仕切状之表難心得儀有之候抔と申上候段、畢竟金右衛門庄七馴合候而、私を申掠候と乍恐奉存候

一　庄七方へ私方ゟ請取可申金子ニ御座候ハヽ、午六月迄相閑ニ致可申筋無御座候、扨又巳七月金子拾五両私方ゟ庄七

方へ用立遣申候、右金子打なくりニ可申候、又々庄七金右衛門馴合謀計申上候儀と奉存候、右金子拾五両之為替證文庄七方ゟ請取所持仕候、

右之通少も相違不申上候、以御慈悲庄七金右衛門相対ニ被仰付被成下候ハ、難有奉存候、御尋之儀者乍恐口上ニ可申上候、以上

申六月　　羽州村山都北口町　　庄右衛門

御奉行所　様

乍恐書付を以御訴訟申上候

辻六郎左衛門御代官所

羽州村山郡前小路村

訴訟人　金右衛門

為替并預金滞出入

戸沢上総介様御領分

同国同郡北口町

□(相)手　庄右衛門

三郎兵衛

右同所

同国同郡工藤小路村

同　弥次右衛門

辻六郎左衛門御代官所

同国同郡羽入村

同　傳兵衛

右同所

同国同郡楯北村

同　金右衛門

右同所

同国同郡松橋村

同　九郎右衛門

一　羽州村山郡前小路村金右衛門申上候、岩佐郷蔵様御支配所同国同郡長瀞村庄七方ゟ右金右衛門方へ巳年紅花荷物相送り候所、右代金庄右衛門相滞候ニ付、同午之年庄七方ゟ長瀞御役所江御願申上候、則御添翰を以新庄御役人様御願申上候ニ付、庄右衛門被召出御吟味被遊候所ニ、右紅花荷物私方へ相渡置候所、相滞□(由)□私を相手取返答書差上申候、其節私義柴村藤衛門様御支配ニ而、長瀞御役所江私被召出右之段委細書付を以申上候趣、左之通ニ御座候御事

一　私義庄右衛門方ゟ被相頼、紅花荷物年々京都江持参仕、相払代金其度毎ニ庄右衛門方へ渡し、既去巳之年も庄右衛門紅花荷物京都へ持参仕、代金九拾弐両三分、銭九百六文相払申上候所ニ、右荷物売払不申内問屋方ゟ金子八拾五両先借り仕、庄右衛門従弟久四郎と下代ニ相渡申候、其外金拾両座頭間金為替立替駄賃諸入用共ニ百拾弐両余之外ニ、蔵敷口銭金五拾六両三余無尽預ケ金弐拾両、都合九拾六両余預ケ都而過金御座候間、御吟味之上相済候様ニ願上奉候御事

一　先御代官芝村藤右衛門様御吟味之旨庄右衛門申上候者、京都ニ而久四郎方へ相渡し候金八拾五両之儀者、会津石津屋ハ久四郎方ニ金右衛門方ゟ為替金有之候ニ付、右為替金庄右衛門請取候由申上候、此義大キ成偽ニ御座候、此段乍恐三御役所様御□(由)□吟味之上、為替金ニ而無之紅花代金相渡候儀相違無御座候、為替金と申義御吟味奉願上候所、御場所替之段被仰渡、蔭山外記様寒河江御役所江御引渡罷成、其後新庄御役人様方へ御文通被成下候御通翰、私共へ御読被為聞奉承知候所、庄右衛門方ゟ三御役所様へ差上置候書付共、甚相違謀計之書付指上置候ニ付、御吟味御願無是非御訴訟申上候御事

一　蔭山外記様御支配之節、寒河江御役所様羽入村傅兵衛御願申上候者、右庄右衛門とハ近キ親類御座候間、内々ニ而立会吟味仕相済申度段、楯北村金右衛門両人ニ而達而御願申上候ニ付、私共被召出右両人立合吟味之趣承候様ニ被仰渡畏罷有候所ニ、去ル午ノ十月晦日、両人共松橋村九郎右衛門宅江罷越、翌朔日私并ニ名主共ニ九郎右衛門宅へ被召呼私吟味被致、同三日右金右衛門伝兵衛并松橋村九郎右衛門北口村三郎兵衛工藤小路村弥右衛門右五人当村名主宅へ罷越、双方被召呼吟味之上楯北村金右衛門申候者、先達而段々吟味之節金右衛門方ゟ差上ヶ入御覧候庄右衛門直筆之送手板之儀、いか様成物ニ御座候哉、見立候様ニ当村名主方へ被申候故、右送り手板差出見セ候様ニ可仕と私名主へ被申候所ニ、遠慮ニも存候得共、御役所ゟ被仰渡も有之吟味被致候儀、其上私名主被申候ニ付、無拠右送り手板名主江相渡、当村ゟ金右衛門請取致披見申聞候者、我々了簡も有之候間、先休足致候様ニ被申候ニ付、勝手ニ罷立候、跡ニ而送り手板印形之処五人之者共引捌申候ニ付、奉驚早速其趣寒河江御役所様江御左右申上候、其上長瀞役所様へも御左右申上候、右送手板奉入御覧候御事

右之通少も相違不申上候、前條申上候通、巳年以来御支配様御替り被遊候度事御引渡罷成書物御吟味被成下候ハヽ、明白ニ相訳り可申と乍恐奉存候、私義紅花代金相滞候義曽而無御座候、却而庄右衛門方へ過金預ケ置候所、以之外相違成義申上候、其上送り手板印形引捌候儀、右五人之者共庄右衛門と馴合、私を相加すめ我儘功成義致掛候と乍恐奉存候、以御慈悲右之者共被召出送手板印形引捌候段御吟味被成下、庄右衛門方へ預過金之分早速相済候様ニ被仰付被下し置候ハヽ、難有奉存候、委細之儀者、御尋之上口上ニ可申上候、以上

申
五月

羽州村山郡前小路村
訴訟人　金右衛門

御奉行所　様

如斯目安差上候間致返答書、来月四日評定所へ罷出可対決、若於不参者可為曲事者也

申
五月十一日

丹波判
豊後判
御用方無加印
河内
御用方無加印
若狭
伊豆判
肥後判
長門判
伊賀判
因幡判

乍恐返答書を以奉申上候

一　羽州村山郡北口村庄右衛門奉申上候、辻六郎左衛門様御代官所同国同郡前小路村金右衛門申上候者、長瀞村庄七紅花代私方義相滞、其上私方へ取替御座候様御訴訟申上、御裏御判頂載相付候得共、偽ニ御座候ニ付乍恐返答書を以奉申上候

一　長瀞紅花壱駄弐固小荷壱丸之儀者、庄七方ニ而金右衛門売支配ニ相頼、則京都ニ而金右衛門引取売払候義、相違無御座候処、段々偽を申上、庄七紅花金右衛門儀不申由申ニ付、右紅花金右衛門売払京都問屋伊勢屋源助方承申候処ニ、長瀞庄七紅花代巳極月三日売払代金不残仕切状共ニ金右衛門方に相渡候由、源助方ゟ申来候、然処金右衛門偽を申上、庄七紅花存不申抔と申上候義難心得奉存候、右源助方ゟ代金仕切状共ニ請取申上候者、庄七方へ仕切状代金共相渡候成と奉存候所、御裏御判頂載奉驚入候

一　金右衛門申上候者、庄右衛門紅花弐駄余之売払代金九拾弐両三分九百六文ニ相払候様ニ申上候得共、私紅花ハ壱駄斗支配代四拾弐両ニ売払差引仕候、扨又先達而長瀞御役所江金右衛門申上候ニも、庄右衛門巳年分紅花壱駄支配ニ仕四拾弐両ニ売払候段申上候而、御評定所へ偽を申上候儀難心得奉存候、如何様之巧ニ御座候哉無心元奉存候

一　右荷物売払不申内問屋方ゟ八拾五両先キ借り、久四郎方へ相渡候由、金右衛門申上候得共、此金子者私方へ引取可申金子ニ而長瀞紅花義障り無御座候、其外座頭間金之儀此方ニ而取替其代りニ京都ニ而請取申候

一　蔵敷口銭と申事一向存不申候、此儀金右衛門心得違ニ奉存候

一　最上表之儀者、六月紅花仕入之節ニ而金銭入用多ク御座候ニ付、手寄次第才覚仕候、私方ニ而者会津石津屋善四郎相頼金子才覚、京都為替ニ仕私同村之商人共ニ取替京都ニ而取集金主方へも用立申候、紅花本手金外私紅花代

取合百両余借シ金之内八拾五両京都ニ而久四郎引取申候、為替取揃前年善四郎宿元へ相渡申義ニ御座候、ケ様之事手立ニ仕候義難心得奉存候

一　手板之儀荷船世話仕候節、私手板ニ致送り呉候様ニ庄七申候ニ付、相認庄七方へ遣候所、其後又庄七直手板ニ認直シ荷物ニ相添遣し申候、然所右私直筆手板所持致金右衛門證拠立申儀ニ御座候得共、私認遣候手板用立申儀ニ者無御座候、尤荷物相添遣候庄七直手板之儀、荷才料方ゟ請取此度持参仕候、乍恐御尋之上可、奉入御覧候私手板之儀、反故同前之儀ニ奉存候、猶又御尋之上乍恐口上ニ可申上候、以上

羽州村山郡北口町
反答人　庄右衛門

宝暦弐年申六月

御奉行所　様

乍恐書付を以御答奉申上候

一　羽州村山郡長瀞村庄七北口村庄右衛門紅花代金出入ニ付、前小路村金右衛門幷庄右衛門方へ差引勘定出入出来仕候ニ付、羽入村傳兵兵衛楯北村金右衛門寒河江御役所江御願申上、立会勘定之旨紅花荷物送り手板引さき候抔心得違申上候ニ付、左ニ御答申上候

此儀伝兵衛金右衛門寒河江御役所御願申上立会候儀ハ無御座候、去ル午之十月廿七日寒河江御役所江右両

人被召出被仰付候ハ、北口村庄右衛門前小路村金右衛門差引勘定之儀、双方御役所ゟ御立会勘定表御見届ケ被下度段、前小路村金右衛門達而相願候処、左候得者出入之もの共双方難儀之儀も難斗候間、羽入村伝兵衛楯北村金右衛門御召出内々ニ而立合勘定相分り候ハヽ、双方江意見差加へ内済致候様被仰付候ニ付立会申候、全以両人之者共御願申上立会申候儀ハ無御座、達而遅滞申上候得共再応被仰付候間無拠立会申候

一　私共立会申候節、双方書物私共了簡ニ何レ共相分リ不申様ニ奉存候、其節庄右衛門方ゟ紅花荷物送り手板差出候得者、金右衛門方ニ茂庄右衛門直筆之送り手板所持致候由申候間、私共披見仕候処、名印捌ケ相見へ申候間、直ニ其段金右衛門方へ申達候、然ル所私共五人ニ而引捌キ候段御訴書申上奉驚入候、引さき候儀ニ者曽而無御座候、勿論出入之儀如何様ニ相済候共、私共ニ相障リ可申儀無御座候処、引さき可申謂無御座候、訴訟人金右衛門申上候儀難心得奉存候

右御答申上候通、少も相違之儀不申上候、御尋之儀茂御座候ハヽ乍恐口上ニ可申上候、以上

羽州村山郡北口村庄屋　三郎兵衛
同国同郡工藤小路村庄屋　弥次右衛門

宝暦弐年申六月

同国同郡羽入村名主　傳兵衛
同国同郡楯北村名主　金右衛門

同国同郡松橋村名主
九郎右衛門

御奉役所　様

右之通庄右衛門返答書幷名主共返答書相認、六月四日御評定ニ罷出候処ニ、江戸両嶺三崎屋藤兵衛神田明神旅篭町上州屋市左衛門猿屋町伊勢屋左兵衛殿申落(ヲロシ)し、十三日迄取扱申候度、日延御願相叶取扱ニ及候処ニ、一向金右衛門得心不仕候ニ付、又々双方不得心之段申上候、十三日ニ者御吟味無之、廿一日罷出候様ニ被仰付候所ニ、廿日大御所様御法事上野ニ而千部之御法事ニ而、廿一日ハ大小名上野へ御参詣被遊候ニ付相延申候、依之七月四日被仰付候、右之内三人共ニ取扱致度、色々与取扱有之候得共不相済、依之庄七願い尤流ニ被成候得共、一事両用之願ニ付、金右衛門庄衛門双方片付申候ハ、願出候様ニ被仰付、又々庄七願候間、両人斗取扱い相済可然と申事ニ候、殊ニ右出入之紅花代金ニ而御座候間、庄七庄右衛門間ニかり内済申候ハ、、金右衛門願出相立申間敷と相談相決、七月三日迄相済申候、同四日罷出候処ニ、両人口上御聞被遊候得共、何連共訳り可申候間、追而寄合ニ吟味可致之間罷立候様ニ被仰付、永井丹波守様御役所へ同六日罷出候

一　御留役人佐間忠兵衛様御吟味訴訟人金右衛門方御尋被遊候得共、京都ニ而八拾五両外拾両相渡候内、紅花代金も有之様ニ申上候得共、證拠立申義無之候間、何れ共相訳不申候、忠兵衛様其方願不埒千万ニ候と御呵何に致し候而も、證拠無之候而ハ不相立段被仰候、蔵敷口銭貸金有之由申候得共印形之無之候間、一向相立不申候、庄

右衛門蔵敷口銭預リ義と被仰候間、庄右衛門申上候者口銭蔵敷与申義預リ金一切無御座候段申上候事、又手板被取引捌候段金右衛門申上候得者、手板ハいかゝ致し而引さき候哉と御尋御座候、卯助宅ニ而立合吟味之節引さき候段申上候得者、何故五人之者共引さき候哉と被仰候間、私共立会吟味之儀御役所ゟ可仰付相訳候ハヽ、早速埒明不申候間、立会勘定可訳と被仰付ニ而罷立候処、何連共双方相訳不申候間、其段申上候而立退キ申候所、右手板引捌可申謂無御座左様之儀曽而仕不申段申上候

一　曲渕豊後守様永井丹波守様御同座ニ而又々御召出御吟味被遊候、金右衛門申方何共難心得金子之筋相訳り不申候間、證拠斗出候様ニ達而被仰候得共、帳面など斗持参致候而證文ニ而も無之候間、庄右衛門方にも證拠有之筈ニ候間、帳面成共取寄可申段被仰付候、依之差引書二冊有之候、差出申候、此方ニ而吟味可致候間、罷立候様ニ被仰付候、御留役人右兵衛様双方勘定両宿共立会勘定可致様ニ被仰付候、右差引書御渡罷帰候

一　七月九日両宿申合、神田上州屋市左衛門宅ニ而、庄右衛門金右衛門立会勘定仕候得共相訳不申候、尤江戸宿藤兵衛三郎兵衛庄右衛門三人罷越候、依之其段十一日ニ御扱露仕候得者、左候ハヽ、同十八日御内寄合へ罷出候様ニ可仰付候事

一　同十八日丹波守様御役所江罷出候、留御役人忠兵衛様御吟味ニ両宿共立会ニ而いかか致候而済シ不申段被仰候得者、庄右衛門方ゟ差引書写ニて差出候間、相済し不申候段金右衛門申上候、庄右衛門何故ニ写しニて差遣哉与御呵被成候、庄右衛門申上候ハ、大切之書物ニて御座候間、右本紙無相違写シ候而、持参申候由申上候得共、此方ゟ申付立合勘定致上者直差引書出不申段不届千万被仰御呵被成候、依之此方ニて勘定致段ニて金右衛門帳面御取被成、指引書何か違ひ候哉と御尋被成候得者、金右衛門申上候者、私遣候帳面ニ直筆印形相違無御座候、然ら者違ひ候所者何連ニ哉と被仰候得者、〆迄ハ相違無御座候、其外ハ白紙ニて遣申候所ニ末書名印ハ不仕段申上

候、印形違ひ無之見え申候を書不申と申候義、難心得存候と被仰候、私書不申候所へ印形致候儀無之候と申候得者、忠兵衛様扨々其方不届者手跡ハ違ひ候而も印形ハ違ひ無之候所、左様之申方謀判之申掛と相見へ申候、其分ニ不罷成弥其方印形ニ而者無之候哉と押返シ御聞被成候得共、印形不申と申上候、庄右衛門義もケ様之事被申掛と而ハ吟味之内ハ同罪ニ而吟味致候間、左様ニ可心得段被仰候、依之又丹波守様豊後守様御両人様之御吟味ニ罷成被召出候、忠兵衛様被仰上候者、右指引書勘定致候所ニ押切共無相違相見へ申候得共、末書名印不仕段金右衛門申候由被仰上候、依之殊之外御呵被成、金右衛門不届者と相見へ申候由ニ而度々御呵被成候、又々庄右衛門先達而立会申付候節、差引書不差出写ニて遣候段不埒者ニ候、殊ニケ様ニ切継月日之上切レ候抔、甚不埒成者ニ候間、両人縄掛被成候而手錠ニ而両宿預ケニ罷成候

一　七月廿一日ゟ取扱之扱佐汰有之候得共、双方ゟ手遣し不罷成候処、利性院被参候而取扱可成候得共、双方不得心ニ候間、廿九日迄相延罷有候、然処ニ廿八日御差紙参候、弥廿九日丹羽守様御役所へ罷出候様ニ被仰付間、廿九日ニ申お路し日延致取扱申度段ニて、利性院被参両宿共申下ケ日延相叶申候、八月六日迄御日延願申候、両宿取扱仕度申上候間相叶申候、双方心得違申上候与申上候、同六日ニ御訴申上候、双方和談得心之上内済仕度申上候得共、手錠御免被仰付候、依之十一日済證文差上候様ニ被仰付候

一　出入者庄右衛門利運ニ相見へ申候所、金右衛門者身命捨て共ニ籠捨与相極罷在候間、庄右衛門ニ達而名主とも意見様加へ乍心外金子差遣相済流申候

差上申済口證文之事

一　羽州村山郡前小路村金右衛門儀、同国同郡北口村庄右衛門外五人を相手取、為替并預ケ金滞出入之儀、当六月

四日双方御評定所江被召出段々及御吟味候処、江戸宿御申下シ奉願上取扱を以双方和談得心之上、金高九拾六両余之内庄右衛門方ゟ金六拾七両一分余差出、金右衛門方へ請取之金弐拾八両三分余致不足相済申候、并手板之儀者此度取扱之上双方申分無御座候、右一件ニ付重而御訴訟ケ間敷儀曽而申上間敷候、為後日之連判済口證文奉差上候、以上

宝暦弐年申八月

辻六郎左衛門御代官所
羽州村山郡前小路村
訴訟人　金右衛門

戸沢上総介殿方
同国同郡北口村
相手　庄右衛門
三郎兵衛

右同所
同国同郡工藤小路村
同　弥次右衛門

辻六郎左衛門御代官所
同国同郡羽入村
同　伝兵衛
右同所
同国同郡楯北村
同　金右衛門
右同所
同国同郡松橋村
同　九郎右衛門
神田旅篭町壱丁目
扱人　上州屋市左衛門
小伝馬町三丁目三崎屋
同　藤兵衛
同所　木屋
同　権左衛門

御奉行所　様

右之通之證文八月十一日御評定所へ差上相済申候也、同十二日御判消シ金右衛門相廻申候、依之十三日御暇ニ罷上リ申候所、一両日之内罷上り候様被仰付、右差上置書付後可申との儀故、十四日罷上書付請取御暇申上、十九日八っ時江戸出立申候而、同廿八日夜四っ過ニ無事着申候、以上

此時済口御聞届ニ御評定所へ御出被成候御老中

西尾隠岐守様　遠州横須賀
　　三万五千石

寺社御奉行

五万石　青山因幡守様
三万石　島居伊賀守様
壱万石　本多長門守様

御勘定奉行

七百石　松浦河内守様
千　石　神尾若狭守様
弐千五百石　曲渕豊後守様
三千三拾石　永井丹波守様

町御奉行
六百石　能勢肥後守様
弐千石　山田伊豆守様

一〇　紅花灯篭写真（口絵参照）

一一（京都・大坂紅花売買会所取立ニ付）乍恐以書付奉御願上候

乍恐以書付奉御願上候

一　去丑春中、私共惣百姓為名代京都・大阪江紅花売場所御願申上候処、慥成證據無之不束之義ニ付、御取用ニ難成段被仰聞候間、帰国之上惣百姓共と熟談仕候処、先前ゟ問屋共不法成仕形(方)之儀、其時々京都町御奉行様江御届申上候目早書入御覧申上度候、猶又其外之證拠聊承知罷在候得共、至而此義ハ難申上御義ニ御座候間、御慈悲之御賢察御願申上候ゟ外無御座候御事

一　京都ニ而紅花問屋之義、先年者国元ゟも相建候時節も御座候処、新問屋拾四軒ニ相定リ候已後、百姓一統難義ニ付町御奉行様江数度御願申上候得共、田舎もの申上方行届不申哉、昨今ニ而は御願之筋新規之様ニも御聞不被成下哉と迷惑仕候、新問屋正道之取斗ひニ而口銭指出し候義ハ不苦候、口銭之外直違ひ夥敷引取候様相見得申候、既ニ末ノ五月御奉行所江御届申上直違ひ請取候御事

一　先願申上候ハヽ、京都・大坂ニ而紅花売場所被為仰付候ハヽ、御冥加米千俵つゝ年々差上紅花荷と相対直担(段)仕候て、国々紅花善悪相応之代金ニ売渡し、百姓一統之御救ニ相成可申段、先達而御願申上候得共、新問屋御潰シ難被成之御旨、依之私共御願奉申上候趣、左ニ申上候

一　新問屋拾四軒之内数年問屋職相休ミ居リ候もの御座候間、近頃恐多御義ニ御座候得共、右休ミ株壱軒御貰ひ被遊私共方江被為仰付被下置度奉願上候、左候ハヽ、右場所ニおゐて新問屋是迄之仕癖相止、紅染や誰方江何印之花代金何程ニ請取口銭何程引候段、明白之仕切書指出し候様仕度、金子相頼売買仕候得バ羽州之百姓甚潤ひニ相成申御事ニ御座候、聊餘国ゟ出荷仕候紅花江ハ散而貧着(弱)不仕候義ニ御座候得ハ、残リ問屋江之指障リニモ相成申間敷様ニ奉存候、依之連年之内紅花悪作ニ而駄荷無数年ハ、右場所諸雑用まけ仕候義御座候間、大坂ニ而も売買場所壱軒被為仰付被下置度御願申上候、然ル上ハ羽州表ニ而悪作仕候而も西国表ゟ出荷在之候得ハ、両持合取続永々相勤惣百姓之諸役銭金納等の手繰り宜敷相成候様仕度奉存候御事

一　京都・大坂両処之紅花売買場所御免被為成下候ハヽ、為冥加と紅花壱駄ニ付米壱俵つゝ之積リ其毎年駄数ニ応し御上納仕度候、紅屋と直相対ニ付明白之取斗ひ国々江も相聞へ、荷主百姓附添罷在候ニも及不申、前年紅屋ゟ国々江金子持参仕相調候時節、同分ニ潤ひ可申与奉存御事

但シ羽州納米壱俵ニ付三斗七升入相場拾ヶ年之以平均ヲ金納御定奉願上候御事

右申上候問屋株京大坂ニ而弐軒御許容之義何分奉願上候、被仰付被下置候上、右弐ケ所売買場所紅染屋共江御触流之義追而御願申上度候、私共義又々願出候義、国元ニ而も願人ニ相成候儀辞退仕候得共、惣百姓之内当村飢渇ニおよひ候程之ものハ今日之渡世ニ已而抱リ、願主も無御座永久国之衰微ニ貧着仕候、猶又京都新問屋共之仕法不埒之義、遂一承知之ものも無数ゆへ、無拠愚盲不弁之私共再願御出訴仕候、先年ハ九十月ニハ紅花荷物不残売拂罷下リ、其金子ヲ以雑穀たはこ之類商人買入候ニ付、諸色金子之通用能小物金納等ニ手間(ツカエ)無之候処、近年ハ問屋方仕癖之不宜敷ニおの津から不捌ニ相成、翌春夏迄も持越シ、一国之金子不足ゆへ売もの下直ニ而金子手配リ指問、御支配所御代官様方江金納諸役銭御手間ニ相成リ甚難渋仕候、元来紅花之義ハ土地ニ応じ候産物、殊ニ麦作と稲作之間ニ取入、夏役銭金納夫食迄ニ相成リ、右荷物ニ仕立テ候迄ハ人歩(夫)多分相懸リ候ゆへ、紅花作不仕諸人迄友稼キニ相成申候、御憐愍之上願之通被為仰付被下置候ハヽ、生々世々惣百姓広太之御救ニ相成候段、何程欣御慈悲難存可奉存候、以上

御代官辻六郎左衛門様御支配

宝暦七年辰三月　　羽州村山郡荒町村百姓　　仁兵衛

御奉行所様